

第4学年国語科学習指導案

研究授業2

児童 男3名 女5名 計8名

指導者 教諭 山本 恵吾

- 1 単元名 「大好きな赤生津を新聞で伝えよう」
 主要教材 「アップとルーズで伝える」(中谷 日出作 光村図書 国語下)
 「四年三組から発信します」(光村図書 国語下)

2 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	・地域のよさを伝えることに興味をもち、読み取ったことをもとに、新聞を書こうとしている。
書くこと	・目的に応じて新聞に書く上で必要な事柄を調べることができる。 (書ア) ・書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。(書ウ)
読むこと	・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりできる。(読エ)
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うことができる。(言イ(ク))

3 単元の中心となる表現活動

書く内容の中心に合う写真を選び、地域のよさを新聞で伝える。

4 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
お お む ね 満 足 で き る 状 況	・「赤生津のよさ」を積極的に調べ、写真と記事との関連を考えながら、新聞を書こうとしている。	・伝えたい内容に合わせて、必要な事柄を調べている。 ・写真と記事の内容を関連させて、中心を明確にして記事を書いている。	・写真と文を関連付けて事例と説明を対応させて読んでいる。	・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、新聞の中で活用している。

5 単元について

(1) 児童について

児童は、「かむことの手」の学習で、「からだ発見ブックをつくろう」というゴールを設定し、読み取りを進めた。各段落の中心を落とさないように要約し、人体図に位置づけながら、「かむことのよさ」だけでなく、各器官が相互に関連していることを読み取ることができた。また、読み取ったことを紹介文にするために、整理して書くこと、伝えたいことを短く書くことなどを学習した。

さらに、「ナルホド からだたんけんシリーズ」を活用し、児童が関心をもった器官について、要点を短くまとめながら、紹介文を書いた。どの児童も効果的な構成で紹介文を書くことができた。自分が伝えたい中心を伝えるために、事象を説明する文章を入れて紹介文を書いた。しかし、どのように説明すればよいかを十分に理解していない児童がまだいる。

9月に行ったアンケート・実態調査の結果は以下の通りである。

① 説明文の読み取りは好きか。	とても好き 1名	好き 6名	あまり好きではない 2名	好きではない 0名
② 説明文を読むときに、文章の要点をつかんで読むことができますか。	よくできる 2名	できる 4名	あまりできない 2名	できない 1名
③新聞を書くときに、意識してできたことは何か。	○取材をすること 3名	○写真を選ぶこと 2名	○見出しを書くこと 5名	○記事の文章を書くこと 5名
④新聞を書くときに、あまり意識できなかったことは何か。	○取材をすること 3名	○写真を選ぶこと 4名	○見出しを書くこと 3名	○記事の文章を書くこと 1名

アンケートの結果から、「かむことの力」の学習で、表現活動への意欲が高くなった児童も見られるが、説明文を読み、要点をつかむことが苦手な児童もいることがわかった。要点をつかむことが苦手な児童は、文章を書くことにも抵抗感がある児童であり、本単元で新聞をつくることで、書くことの経験を増やしていきたい児童でもある。「新聞記者になろう」の学習では、文章構成に気をつけて記事を書くことができた児童は多いが、記事との関連を考えて写真を選択する児童は少ないことがわかった。目的に合わせた文章を書くことはできてきているが、記事や見出し、写真などを関連させながら新聞を書くことができる児童は少ないことがわかった。

(2)教材について

第3学年及び第4学年における「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。本教材では、指導事項エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」を主たる指導事項とする。

本単元は、「アップとルーズで伝える」と「四年三組から発信します」の二教材で構成されている。主要教材「アップとルーズで伝える」は、テレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が、送り手の意図に応じて取捨選択されたものであることを、基本的な映像の技法である「アップ」と「ルーズ」を通して述べた説明文である。文章全体は、「はじめ」(問題提起)→「なか」(問題説明)→「おわり」(まとめ)という典型的な説明文の構成で、「初め」も「中」も「アップ」と「ルーズ」を対比させてまとめる段落構成になっている。したがって、対比的な段落関係をつかみながら意味段落のまとまりを考え、段落のつながりをとらえて読むことが容易にできる。さらに、根拠を明確にしながらかの内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読み取りの力を育てることができる教材である。

主要教材「四年三組から発信します」では「アップとルーズで伝える」での学習内容を踏まえて、情報収集から発信までの活動の行い方が述べられている。特に、集めた情報の中から相手や目的に合うものを選ぶことに焦点をあてられており、「アップとルーズで伝える」で読み取ったことをいかしながらか内容を実感することができる教材である。

写真資料として、三つの資料を提示する。1つ目は、「馬蹄石」と「馬蹄石から眺めた景色」の写真である。馬蹄石は、東稲山の山頂付近にある石である。源義経が戦いに勝った時、山頂に登り、景色を見渡した時についた馬の蹄の跡がある石といわれている。馬蹄石を撮影した写真は、どのように馬の蹄のあとがついているかがよくわかる。また、馬蹄石から眺めた景色の写真は、前沢区を一望できることがわかる。2つ目は、「蚕」の写真である。赤生津地区は、蚕にゆかりのある地域であり、毎年、本校の3年生が、総合的な学習の時間で、「蚕の飼育体験」を行う。蚕が桑の葉を食べている写真は、どのように桑の葉をたべているのかがよくわかる。3つ目は、奥州市天然記念物「イロハモミジ」の写真である。イロハモミジは、樹齢570年の市天然記念物である。岩手日報に掲載された写真は、イロハモミジ全体とイロハモミジを見上げる本校児童の様子がわかる。これらのことから、

主要教材の理解と郷土への誇りを深めるために適した資料であると考え。

(3)指導について

本単元では、段落の要点を比較しながら読み取り、読み取ったことを活用しながら、記事に合う写真を選択する力を育てることができるよう次のような指導過程を構成した。

「見通す」過程では、「馬蹄石」と「馬蹄石から眺めた写真」を提示して、赤生津にあるよさを振り返らせる。そして、赤生津にはどんなよさがあるかを視点に、「赤生津マップ」に位置付けていけ、多くのよさがあることを実感させたい。さらに、「よさを伝えるためには、どんな伝え方があるか」と問いかけ、自分の表現方法を振り返ったり、「四年三組から発信します」を活用し、新聞の作成の仕方を確認したりすることで、「地域のよさを伝える新聞」を作っていく見通しがもてるようにする。

「確かめる」過程では、まず、段落のまとまりを考え、段落構成図に表す。次に、文章と写真を対応させながら、文章を読み取らせる。単位時間のまとめでは、「アップ・ルーズクイズ」を行い、教師が提示した写真がアップもしくはルーズで撮影されたものであることを、理由づけて答える活動を行う。新聞作りをする中の「適切に写真を選択する」ための活動にもつなげていきたい。また、【説明的な文章教材読みのものさし】の中では、⑦各段落の要点は何か⑧段落ごとのつながりはどうかを扱う。【読みの視点】は、指示語・接続語を扱う。「アップ」と「ルーズ」を対比させたり、指示語に着目して中心段落と具体例を示す段落、そしてまとめの段落との関係をとらえたりすることで、段落の関係に気付かせる。『「アップ」と「ルーズ」のよさ』で終わらず、『目的によって、「アップ」と「ルーズ」を使い分けている』ことを形式段落⑧の内容と段落の読み取りを関連させてとらえさせる。

「表現する」過程では、まず、取材をして集めた材料を、伝えたい内容に合わせて整理する。次に、中心が明確になるように、文型を例示するなどして、記事を書いていく。記事の書き方については、1学期の学習の「新聞記者になろう」を想起しながら学習を進めていく。また、記事の中には、写真の説明や様子が入る記事を書き、伝えたい中心がより明確になるようにしたい。次に、記事の内容に合うように、アップ・ルーズを選択し、写真を撮影する。さらに、出来上がった記事をグループで交流する。「記事の内容と見出し、写真が適切であるか」を視点に交流させたい。

「広げる」過程では、公民館に新聞と感想用紙を置き、感想をいただく。さらに、3・4年生の保護者に配布し、感想をいただく。自分たちが調べたことを地域に伝えようという目的意識をもって学習することで、意欲的に学習が進められるようにしたい。また、地域の方から感想をいただくことで、自分の表現を振り返ることができるようにしたい。

この単元での「五つの言語意識」は以下のようにとらえた。

- ・相手意識…地域の方、3・4年生の保護者に
- ・目的意識…調べたことの中心を明確に伝えるために
- ・場面意識…新聞を配布することで
- ・方法意識…主要教材で読み取った内容をもとに、記事を構成することで
- ・評価意識…他者評価、相互評価、自己評価

6 学習指導計画と評価規準(13時間)

過程	学習活動 学習内容(・)	評価規準			
		国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語について の知識・理 解・技能
見 通 す 2	1 単元のねらいを知り、見通しをもつ。 ・「馬蹄石」と「馬蹄石から眺めた景色」の写真を提示し、赤生津のよさを振り返る。 ・自分の表現方法を振り返り、「地域のよさを伝える新聞」を作っていく見通しをもつ。(1)	「地域のよさを伝える新聞」を作るために、「アップとルーズで伝える」を読もうという意欲をもっている。 (発言・ワークシート)			
	・「四年三組から発信します」を読み、新聞学習を想起する。 ・『地域のよさを伝えるために「地域のよさを伝える新聞をつくる』』とめあてをもち、学習計画を立てる。(1)	どのように学習を進めるか具体的な流れを考えている。 (発言・ワークシート)	新聞作成に必要な事項を想起しながら、学習計画を立てている。 (発言・ワークシート)		
確 か め る 4	2 主要教材を目的をもって読み取る。 ・「はじめ」→「なか」→「おわり」で構成されていることをとらえる。 ・段落構成を図にまとめさせる。(1)			段落相互の関係を理解し、文章全体の構成をつかんでいる。 (発言・ワークシート)	
	・形式段落①②③から、アップとルーズとは何かを読み取る。 ・文章と写真を対応させながら、文章を読み取る。 ・「アップ・ルーズクイズ」を行い、学習内容を定着させる。(1)			文章と写真を対応させながら、アップとルーズの画面の特徴を読み取っている。 (発言・ワークシート)	
	・形式段落④⑤⑥から、対比させて書かれていることをとらえながら、アップとルーズの違いを読み取る。 ・形式段落⑦⑧から、テレビや新聞では、たくさんの映像や写真の中から、目的に合わせて選択していることをとらえる。 ・「アップ・ルーズクイズ」を行い、学習内容を定着させる。(1)			文章と写真を対応させながら、アップとルーズの違いを読み取り、筆者の伝えたいことを読み取っている。 (発言・ワークシート)	接続語が、内容を対比させたり、まとめの段落として意味をつなげていたりすることを理解している。 (発言・観察)
	3 「イロハモミジ」の記事から、適切な写真を選択する。 ・教師が提示した記事に合う写真を、理由をつけて選択し、グループで検討する。 (1)(本時)			アップとルーズの特徴を理由にして、適切な写真を選んでいる。 (発言・ワークシート)	

表現する 6	4 伝えたいことを決め、取材する。 ・「調べてどんなことを伝えたいか」を決定する。 ・調べたい「赤生津のよさ」を取材する。 ・記事の内容に合うように、写真を撮影する。(3)	目的に応じて、資料を選んで読もうとしている。 (発言・ワークシート)	目的に応じて、適切な方法を選択して取材している。 (発言・ワークシート)		
	5 記事の下書きを書き、記事の内容に合うように写真を選択する。 ・取材したメモを、伝えたい内容に合わせて整理する。 ・写真と伝えたいことが関連するよう記事を書く。 ・伝えたいことを短くして、写真の内容に合うように見出しを書く。 ・記事の内容に合うように写真を選択する。(2)		書こうとするものの中心を明確にするために、適切な写真を選択したり、伝えたいことと写真を関連させて記事を書いたりしている。 (発言・ワークシート)		逆接や順接など、意味のつながりに果たす役割を理解して、記事の中に活用している。 (発言・ワークシート)
	6 下書きをグループで交流し、清書する。 ・「記事の内容と見出し、写真が適切であるか」を視点にして、グループで交流し、清書する。 ・清書した記事を貼り合わせ、新聞を完成させる。(1)		交流によって、よりよい表現を考え、振り返ったり、書きなおしたりしている。 (発言・ワークシート)		逆接や順接など、意味のつながりに果たす役割を理解して、記事の中に活用している。 (発言・ワークシート)
広げる 1	7 新聞の感想をもとに、アップとルーズについて考えをまとめる。 ・公民館に新聞を置かせていただき、感想用紙を置いて、評価していただく。 ・地域の方や3・4年生の保護者に新聞を配布して感想をもらい、評価していただく。 ・今回の学習でわかったこと、いただいた感想を交えながら、自分の考えをまとめ、学習を振り返る。(1)	感想を交流し合い、自分の活動を振り返っている。 (発言・ワークシート)	自分の考えと友達の考えを比較しさらにより表現をするために、意見を交流している。 (発言・ワークシート)		

7 本時の指導

(1) ねらい 主要教材で読み取ったことをもとに、記事にあった写真を選択することができる。

(2) 指導について

本時で身に付けたい力は、「伝えたい内容に応じて、写真を選択する力」である。

「導入」では、アップとルーズでの伝えられることと伝えられないことを想起し、「イロハモミジ」の写真を提示することで、新聞の写真の選択に活用するという学習の見通しをもてるようにする。

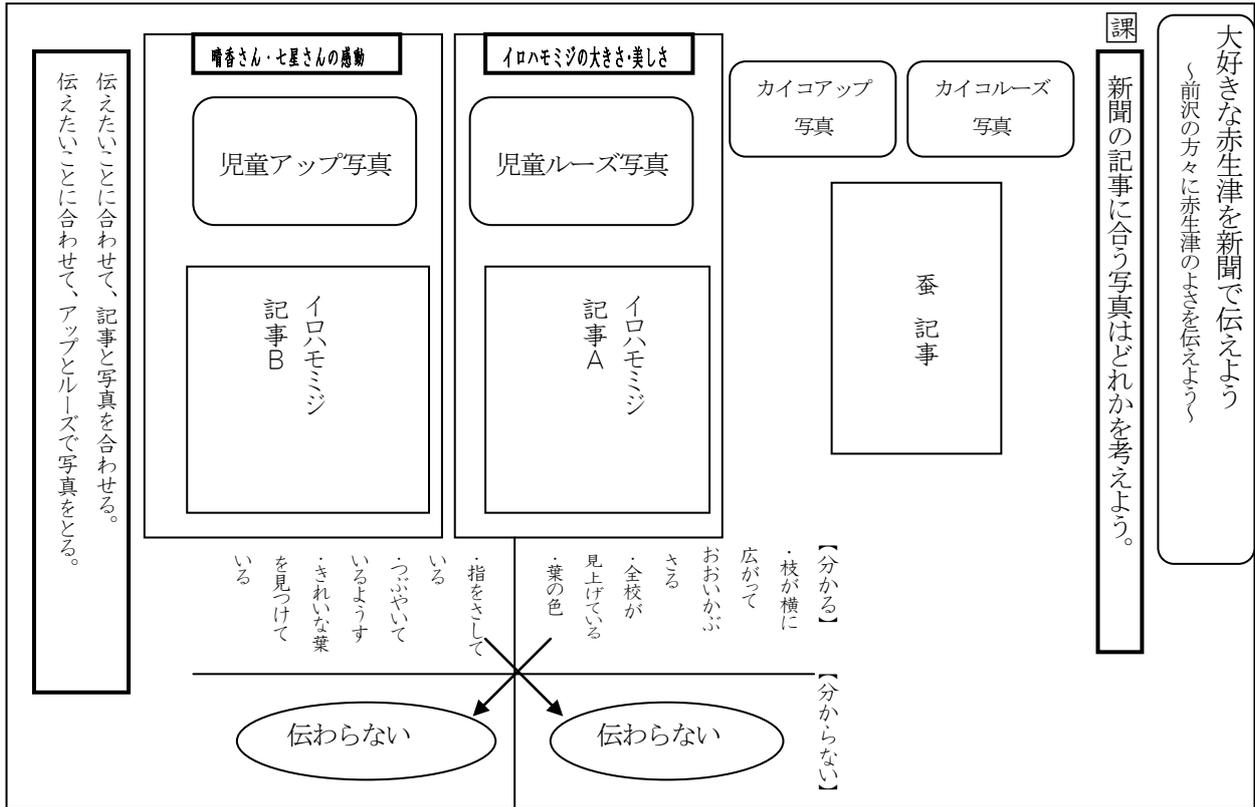
「展開」では、まず、記事にあう写真を検討していく活動の見通しとして「カイコ」の写真と記事を提示する。そして、イロハモミジを題材として、記事のモデル文を提示し、記事にあう写真は何かを検討していく。検討していく中で、「アップ」で撮影したものは、細部の様子がわかり、広範囲の様子はわからないこと、「ルーズ」で撮影したものは、広範囲の様子がわかり、細部の様子がわからないことを記事の文章を根拠にして話し合わせる。(仮説2-①)

「終末」では、本時の活動と主要教材のまとめの段落が関連していることを確認させ、理解を深

められるようにする。

(3) 展開

段階	学習活動 学習内容(・)	支援(・) 【評価規準】
導入 (3)	1 前時の想起をする。 2 本時の学習課題を確認する。 新聞の記事に合う写真はどれかを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズの特徴と違いについて確認する。 ・イロハモミジの写真を提示し、赤生津にある市天然記念物であることを確認する。
展開 (37)	3 学習課題を解決する。 (1) 2つの写真に1つの記事を提示し、適切な写真を記事から理由をつけて選択する。 <ul style="list-style-type: none"> ・記事の伝えたいことに合う写真を選ぶ。 ・記事の伝えたいことは何かを考える。 (2) 2つの写真に2つの記事を提示し、適切な写真を記事から理由をつけて選択する。 <ul style="list-style-type: none"> ・イロハモミジの写真2枚(ⒶH21.11.21 岩手日報の写真(ルーズ)とⒷⒶの写真をトリミングしてアップにした写真)を提示する。 ・2つの記事を提示する。 ・2つの記事に各自サイドラインを引きながら、それぞれの記事に合う写真はどれかを考える。 ・2つの記事の伝えたいことは何か、2つの記事に合う写真はどれかを理由をつけて、グループで話し合う。 ・全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことをもとに、記事と写真を結びつけて、写真を選択することを意識づける。また、送り手が伝えたいことは何かを考える。 ・記事にサイドラインを引き、写真に適合させることで、理由づけて考えられるようにする。 ・記事で伝えたいことを見つけさせることで、2枚の写真を比較させながら考えたり、伝えたいことに合わせて写真を選択していることをとらえさせたりする。 <div data-bbox="944 1489 1404 1848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】アップとルーズの特徴を理由にして、適切な写真を選んでいる。</p> <p>A 2枚の写真を比較し、記事をもとに、理由をつけて適切な写真を選んでいる。</p> <p>B 記事をもとに、理由をつけて適切な写真を選んでいる。</p> <p>【支援】記事には、どんなことが書かれているかを確認し、板書を振り返らせながら、写真を選ばせる。</p> </div>
終末 (5)	5. 学習のまとめをする。 (1)学習の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動と形式段落⑧の内容が合致していることをおさえる。 (2)次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことによって、選択する写真が変わってくることを教材文と関連させて確認し、新聞作りにつなげる。



蚕記事

九月三日、三浦辰郎さんが赤生津小学校をおとずれ、「蚕のし育学習」の先生として、三年生に「蚕と赤生津小学校との関係」などを教えた。次々とえさを食べる食欲おうせいな蚕に児童はおどろいていた。

児童にわたされた蚕は、えさである「くわの葉」を、小さな前あしでつかみ、歯でかみくだきながら食べていた。

むしゃむしゃとくわの葉を食べている蚕を見ていると、苦手だったはずの蚕をかわいいと感ずるようになった。

イロハモミジ記事

① 十一月二十一日に、赤生津小学校全校児童が、樹齢五百七十年の奥州市天然記念物「イロハモミジ」を見学した。全校児童がじっと見上げていたイロハモミジの葉は、美しい夕焼け色にそまっていた。

イロハモミジの全長は十メートル。横に大きくのびている枝にいろどられた葉は、全校児童五十八名にすっぽりとおいかがぶさった。全校児童は、おいかがぶさる葉をじっと見上げながら、秋を感じていた。

奥州市天然記念物が赤生津にあることを初めて知り、赤生津にすんでいることよこびを感じた。そして、赤生津がイロハモミジでいっぱいになってほしいと思った。

② 十一月二十一日に、赤生津小学校全校児童が、樹齢五百七十年の奥州市天然記念物「イロハモミジ」を見学した。大きなイロハモミジを見た児童は笑顔を見せ、感動の声をあげていた。

赤生津小学校三年の小野寺晴香さんと小野寺七星さんは、「見て見て。あの重なっているところ、ちよと色がちがっていて、きれいに見えるよね。」とつぶやきながら指をさし、一番きれいな葉を見つけたり、葉の間から空をながめたりしていた。

奥州市天然記念物が赤生津にあることを初めて知り、赤生津にすんでいることよこびを感じた。そして、赤生津がイロハモミジでいっぱいになってほしいと思った。

